

11月27日(火)

## 「生きていること 生かされていること」

さくら動物病院 院長 平林弘行先生



『命』についての学習として、「生きていること 生かされていること」という題で講演をしていただきました。

前半は、生まれつき両手・両足がないオーストラリア人のニックさんのビデオを紹介してもらいました。生きていくことへの絶望を乗り越え、大学を卒業し、また、サーフィンや水泳、ゴルフなど何にでも挑戦し成し遂げていく姿から、あきらめないことの大切さを教えてもらいました。

後半は、代表児童に聴診器を当てて心臓の鼓動を聞くことにより、自分たちが生きているということを実感させてもらいました。その鼓動を自分で止めようとしても不可能であることから、自分ではコントロールできない『命』の大切さを伝えてもらいました。



最後に、この大切な『命』を生かして夢に向かってあきらめずにチャレンジして行ってほしいというメッセージをいただきました。子どもたちは、平林先生のこのメッセージをしっかりと受け止めることができました。

いのちがたいせつだとおもいました。

ニックさんが、どれだけたいへんか、わかりました。(1年生)

きょう、命のじゅぎょうがありました。さいしょにえいぞうをみせてくれました。そこには、手と足がない人がしました。その人はすごい人でした。なぜかという、プールも泳げるし、ころんでもあきらめなかったからです。ぼくがその人だったら、学校にいきたくなくて家にいるかもしれないです。その人はりっぱだと思いました。さいごに心にのこった言葉が「手足がなくてもできないことはない」と言う言葉です。(3年生)

ニックさんがすごいことをしていた。プールやパソコンが手と足なしでできるのは、あきらめないからだと思いました。ひらばやし先生は「できないとおもっているのは、あきらめていること。あきらめないとかなうことがある」とおしえてくれました。がんばっていたら、ぜったいそのことがかなうのは、しらなかったです。じぶんもそういうことができる人になりたいです。

しんぞうの話のとき、2人がしんぞうをとめれるかやったけど、しんぞうはとめれませんでした。どうしてとめられないかは、「いきているからとめられないのです。ドクン、ドクンなのは、いきているしるしです」とおしえてくれました。(2年生)

ニックさんは、手と足がなくても神様からさずかった大切な命を工夫しながら生きています。失敗をいっぱいしながら、成功して人生をあゆんでいます。ぼくは、あらためて命の大切さを知りました。(4年生)

手や足がなくても生活できるし、あきらめなければふつうの事やそれ以上の事ができるということがわかりました。私たちは手も足もあるので、そんな大切なことに気がつけなかったのかもしれませんが、でも、手足があるからこそ不自由なことなく生活できているので、感謝しなければいけないと思いました。このような事も、命がないとできません。命は、とても大切なものだと思います。(5年生)

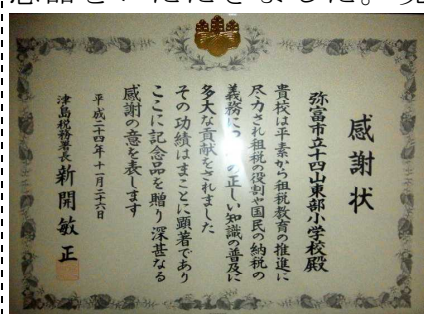
最初に動画でニックさんという人が出てきたときに手足がないのを見てびっくりしました。でも、けんめいに生きていることやセミナーをやっているのを見て感動しました。ぼくも前向きに生きたいと思いました。命があるから今こうして生きているので、両親や家族をあらためて大切だと思いました。今、生きていることを実感し、命の大事さがわかりました。(6年生)

- ・「自分もがんばろうと思った」と感想に書いた児童もあり、ただ「かわいそうだな」という気持ちで終わるのではなく、それを越えて「すごいな」「自分もがんばりたい」という気持ちを低学年でももてたことに驚くとともに、うれしく思いました。
- ・子どもたちは今回の話を通して、あきらめずにやり続けることの大切さを改めて知ることができたと思います。また、そのようにがんばることができるのは、『命』があるおかげなのでと実感することもできたようです。
- ・ニックさんの「手なし、足なし、不可能なし」というモットーと生き方から、「努力し続けることのすばらしさ」が子どもたちの心に響いていたようです。また、心臓の音を実際に聞いたことで「命の大切さ・ありがたさ」を実感できたようです。
- ・夢をあきらめない話は、自分に置き換えながら聞いていたようです。心臓の音にも興味津々で、「生きていること」を考えるよい機会になりました。
- ・ニックさんを見て、勇気をもらえた子、自分がとても幸せであることを知った子など、感じ方はさまざまでしたが、みな心に大きく響いていました。心臓の音を聞くのは、「生きている」という実感をもつことができる貴重な経験でした。(職員)

## 津島税務署より

### 感謝状をいただきました

26日(月)に津島税務署より本校の租税教育の推進に対して感謝状が授与されました。これは、毎年6年生が「租税教室」を受講してきたことと、夏休みの作品募集で「税に関する書道」に多くの児童が出品したことが認められたものです。この日は、署長の新開敏正様始め3名の署員の方が来校され、感謝状と記念品をいただきました。現在、消費税の税率変更が話題になっており、子どもたちも税に対する関心が高まっているところです。今後も税の仕組みの正しい認識につながる学習を進めていきたいと思ひます。



※ 12月1日(土)から7日(金)の13:00と22:00に、クローバーテレビの「ウィークリートピックス」でその様子が放映されるそうです。